



トリチウム汚染水を 海に流すんだってえ!!!

海の水は繋がっています

海難事故にあった漁船がアメリカ西海岸で発見されたとか、漂流中に運よく救助されたジョン・万次郎の物語や、3.11の津波で流されたサッカーボールが太平洋のかなたで拾われ元の持ち主の元に帰ってきたなど、海が繋がっていることを示す事例はたくさんあります。その全世界に繋がっている太平洋に、有害放射性物質であるトリチウム汚染水を30年以上にわたってばらまくという、地球上すべての人々に対する環境破壊行為が行われようとしています。

水で割れば大丈夫？

トリチウムは日本語では三重水素といい、自然界でもごく微量存在します。宇宙線という、文字通り宇宙から飛来する自然放射線と水を構成する水素が反応して生成され、大気中あるいは海水中に存在します。「各国の安全基準に適合するよう希釈して（=水で割って）海洋放出するから大丈夫」「生物濃縮はない」というのが政府の説明ですが、果たして本当でしょうか？

確かに放出段階では薄められ、基準をクリアしているかもしれませんが、しかし、生体内（魚や他の海洋生物）に取り込まれ食物連鎖の過程で濃縮されDNAの切断が起きる、とする研究論文もあります。

また、このトリチウム汚染水には、トリチウム

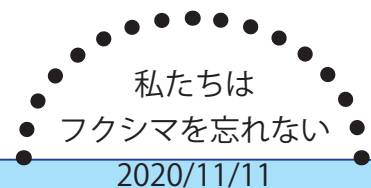
以外にもセシウム・ストロンチウム・ヨウ素など9種類もの放射性物質が含まれており、実態は「液体放射性廃棄物」というべきものです。実態を矮小化しているとは思えません。

汚染水タンクの置き場がない？

トリチウム汚染水対策は海洋放出しかないのでしょうか。モルタル固化保管案などの地上長期保管といった環境負荷のより少ないと思われる別案の検討が十分に行われたのでしょうか。

風評被害対策ってなに？

福島の漁業に携わる方が最も心配していることの一つは風評被害です。そもそも茨城県から福島県沖の沿岸のさかなは「常磐もの」といって、おいしい魚の宝庫です。3.11以降、まず環境基準によって漁業ができなくなり、その後、放射能が検出されなくなっても（水で割ったわけではない！放射線は半減期といって時間がたつと線量が少なくなる性質があります。これと希釈・水割りを混同しないでください。）獲れたさかなが売れない、値がさがる、そういった苦難の末、ようやくさかなが売れるようになった。値もようやく3.11前の水準に戻ったそうです。それがトリチウム汚



全造船関東地協労働組合・よこはまシティユニオン

横浜市鶴見区豊岡町 20-9-505 TEL&FAX 045-575-1948 ホームページ <http://yuniyoko.sakura.ne.jp>

染水放出により、また3.11直後に逆戻りしてしまうようなことを一番恐れているのです。「万全の風評被害対策を行い云々」と政府は言っていますが、そもそも「万全の風評被害対策」とはなんでしょう。汚染水を放出しないことが最善の風評被害対策のはずです。

地球儀を俯瞰すると・・・

「地球儀を俯瞰する外交」をキャッチコピーにした総理大臣がいました。言葉だけ見ると大変すばらしい。しかし、彼の俯瞰している地球儀なるものは、もしかしたら日本周辺の海は世界の海と繋がっていないのではないか。だからトリチウム汚染水を日本国内の（政府権力による強制的）同

意のみで海洋放出するような暴挙（あるいは愚挙）にでるのではないか。そうとしか思えません。

それな!!



太平洋は、東電や日本専用のゴミ箱ではありません

太平洋に限らず、海は、特定の国家・国民の専有物ではありません。東電の不始末の尻拭いにトリチウム汚染水を放出してよいわけがありません。日本国内のみならず、また太平洋に面した国のみならず、全世界に対して、トリチウム汚染水海洋放出について説明、それも一方的な「御進講」でもなければ、札束で頬を張るような強要でもなく、きちんと理解・同意をとりつける責任があります。

次世代が評価する環境対策を！

太平洋、あるいは地球環境は私たちの世代だけのものではありません。次の世代やもっと先の世代のためのものでもあります。次世代の歴史の評価に耐えうる環境対策を求めます。【組合員K】

■故長尾さんの闘いを胸に

よこはまシティユニオンの組合員だった長尾光明さん（故人）は福島第一原発で働き、被ばくが原因で退職後に多発性骨髄腫（血液のガン）を発症し労災認定されました。損害賠償を求めて東京電力を相手に裁判を起こしましたが、東電は労災認定はおろか病名すら否定。裁判所も長尾さんの請求を棄却しました（最高裁2010年4月）。

■原発で働く労働者と共に

原発は、電力会社を元請とした4〜8次の下請会社で稼働しています。3・11以降、多くの労働者が福島第一原発の収束作業に関わり、被ばくを余儀なくされています。東電福島第一原発の収束・廃炉作業や九電玄海原発の定期検査に従事し、被ばくが原因で白血病になったあらかぶさん（40代男性）は、2016年11月22日に東京電力と九州電力を相手に損害賠償を求めて提訴し、闘っています。ぜひ多くの皆さまのご支援をお願いします。

■職場の問題、いつでもご相談を！

私たちは、東日本大震災や原発事故を忘れないため毎月11日に街頭宣伝活動を始めて9年半になりました。これからも何ができるのかを一緒に考えたいと思います。「福島どころじゃない」「自分の仕事と生活が大変」という方もいるでしょう。そんなあなたこそ、あきらめる前に一度ぜひ職場の問題をユニオンに寄せてください。一緒に解決しましょう！